令和4年2月22日

宮津与謝クリーンセンター(焼却炉)の運転再開について

宮津与謝環境組合設置の「宮津与謝クリーンセンター」では、公害防止基準（焼却飛灰のダイオキシン類濃度）の再超過に伴い、昨年8月13日から、焼却炉の運転（可燃ごみの処理）を停止し、試験運転とその検証・分析等により、原因究明と再発防止策の検討に取り組んできました。

今般、地元並びに関係機関との協議・調整が整いましたので、2月24日から通常運転を再開します。

施設の場所

- 宮津与謝クリーンセンター（宮津市字須津 32 番地）
（施設運営事業はタクマ・タクマテクノス特定運営共同企業体に長期運営委託）

ダイオキシン類濃度超過の主な原因

- 焼却炉のごみの燃焼から発生する高温の排ガスを冷却する「ガス冷却室」において、冷却するための再利用水(※1)の TOC 濃度(※2)が、定期点検等の休炉後に一時的に上昇したため、ダイオキシン類の再合成の原因となった。
※1 再利用水…施設内(メタン発酵槽他)で生じる汚水を排水処理設備で一定浄化した水。
上水と混合希釈して、ガス冷却水等として使用する。
※2 TOC=全有機炭素…水質汚濁の指標の一つ (Total Organic Carbon)

主な再発防止策

- 再発防止のため、ガス冷却水の TOC 濃度を常時測定(COD 計設置)し、一定濃度以下に保つとともに、一時的な濃度上昇に備えて「活性炭吸着塔(ガス冷却水の水質改善設備)」を追加設置する。

◎上記内容の詳細…別添「参考資料」のとおり

(参考)ダイオキシン類濃度の公害防止基準値等

項目	公害防止基準値	R3. 8. 10 超過判明時 (R3. 7. 28 試料採取)	単位
排ガス	0.1	0.0000013	ナノグラム-TEQ/m ³ N
飛灰	3.0	【基準値超過】 3.3	ナノグラム-TEQ/g

今回の事象について(宮津与謝環境組合 管理者コメント)

過去2回の事象を教訓に、運営事業者とともに、再発防止を徹底し、当施設の信頼回復に努め、安全で安定的な施設運営に万全を期します。

お問い合わせ先

宮津与謝環境組合事務局

TEL : 0772-46-2111

公害防止基準（焼却飛灰のダイオキシン類濃度）の再超過の経緯と対応

1 事象の経過

- ・ R3.2/16 排ガス・飛灰のダイオキシン類の基準値超過判明により焼却炉運転停止（第1回）
- ・ 5/18 通常運転再開（第1回）
- ・ **8/10 「飛灰」について、公害防止基準値再超過判明**

ダイオキシン類	単 位	法規制基準値	測定結果	採取日
飛 灰	ng-TEQ/g	3	3.3 (0.3 超過)	R3.7.28

- ・ 8/11 地元2地区(須津・石川)へ報告・協議
- ・ **8/13 焼却施設の運転自主停止**
{ 「焼却飛灰」の基準値超過は地元との「施設設置協定」に基づく焼却炉停止要件ではありませんが、組管理者の判断で停止 }
- ・ 8/13 京都府丹後保健所から改善報告書の提出書面指導
- ・ 8/18 当組合から施設運営事業者(タクマ・タクマテクノス運営 JV)へ是正勧告
- ・ 8/20 「飛灰処理物」埋立先(宮津市・与謝野町各最終処分場)の環境影響調査(放流水、地下水の採水) ⇒ (10/4 各基準値以下を確認)
- ・ 8/23 京都府丹後保健所へ(第1回)報告書提出
- ・ 8/24 可燃ごみ外部搬出開始(大阪府和泉市：民間処理施設)
当組合議会全員協議会開催(対応状況等説明)
- ・ 9/1～2 第1回地元説明会(2地区)(試験運転の実施了承)
- ・ **10/14(～11/24) 試験運転実施(原因特定と改善・再発防止策検討のため)**
- ・ 10/21 当組合議会全員協議会開催(対応状況等説明)
- ・ 11/25～ 試験運転結果の分析・総括(最終報告書のとりまとめ)
- ・ 12/27 専門家への意見聴取
- ・ 1/13 京都府丹後保健所へ「ダイオキシン類濃度(ばいじん処理物)超過に伴う最終報告書」を提出
- ・ **2/10・14 第2回地元説明会(2地区)(通常運転の再開了承)**

2 公害防止基準超過の原因及び再発防止策

(1) 基準値超過の原因

基準値超過の原因は、「ガス冷却室でのダイオキシン類の再合成の影響」と考えられ、以下の2点を推定要因として、試験運転で検証しました。

● **ガス冷却水の水質の影響**

ガス冷却水の分析に基づき、ガス冷却水の水質(再利用水+プラント用水〔上水〕)が、ダイオキシン類の再合成に起因している可能性。

● **ガス冷却室出口温度の影響**

測定データおよび机上試験の結果に基づき、ガス冷却室出口温度(現在の設定温度)が、ダイオキシン類の再合成に起因している可能性。

(2) 試験運転結果

① 試験運転の期間